

# 熱海・大島の旅 2024



2024年1月

旅のチカラ研究所 植木圭二

1年で最も寒い時季に熱海温泉で旅友たちと新年会を開いた。そして事前旅行として熱海までの歩き旅、事後旅行として熱海から伊豆大島に渡って島の旅を楽しんできた。

## ■事前旅行は歩き旅

熱海で新年会をすることになり、私はただ電車で行っても面白くないので歩いて行くことにした。誘ったのは私が酒の師と仰ぐ通称“師匠”で、最近頻繁に2人で弥次喜多珍道中をしている。

夜が明ける前、神奈川県海老名市の相鉄線さがみ野駅で師匠と待ち合わせをして、近くを流れる目久尻川の川沿いを歩き始める。

目久尻川は小さな川だが、堤防上の道路が整備されていてとても歩き易い。それゆえ私の散歩コースの一つになっている。

日が昇り朝日に映える雪化粧の富士山が綺麗に見える。この時季の富士山は格別だ。



【目久尻川】



【海老名市の目久尻川から見た富士山】

やがて目久尻川は相模川に合流する。相模川は大きな川なので堤防が広くて高い。

源流は山梨県で、世界遺産富士山の構成資産の忍野八海も水源の一つになっている。従って今見えているあの富士山の雪が山体に染み込み忍野八海から湧き出ている相模川に流れてくる。あるいは今流れている相模川のこの水は何年も何百年も前の雪だった。何と凄いことだろう。



【相模川とその堤防】

目久尻川が相模川に合流する地点が寒川町で、相模の国の一宮（いちのみや）の「寒川神社」がある。

一宮というのはその国で最も権威のある神社で、“その国”とはもちろん旧国名なので、ここでは相模の国をいう。それゆえ由緒正しく立派な造りをしている。

もちろん参拝し、旅の安全を祈願する。



【寒川神社】

10時過ぎ、寒川のファミリーレストランに入る。10時30分までモーニングメニューだが、それ以降はランチメニューになり、何と生ビールが半額になる。

師匠は直ぐに飲みたそうな顔をしているが、私はモーニングについているドリンクバーのジュースなどを飲んで凌ぎ、半額になってから生ビールを注文しようと師匠を説得する。

10時30分、生ビールを注文して飲む。しかし既に私の喉は潤っており、あまりビールを欲していない。やはりビールは最初一杯が美味いと痛感する。そして師匠の野生の勘、いや呑兵衛の勘は正しかった。さすが師匠だと、妙な感心をしてしまう。

相模川は平塚で相模湾に注ぐ。今までずっと川沿いを歩いて来たが今度は海岸沿いの国道1号線を歩く。この辺りの1号線は正月の箱根駅伝のルートになっており、風光明媚で歩道も整備されていて歩き易い。

朝食を食べてからあまり時間が経っていないが、平塚駅前の「日高屋」に入る。ここは中華食堂だが、昼間から生ビールを安価で飲むことができる。先ほどの反省から最初に生ビールを注文する。ググッと喉越しが良く、やはり美味しい。

いつものように師匠のジョッキが先に空になる。するとまたいつものように「あのエアコンの風が、このジョッキだけ蒸発させているからとんでもない席に座ってしまったよ」と言っている。結局、師匠は生ビール2杯と紹興酒の炭酸割を飲んだ。私も修行と思って、後に続いた。

大磯駅前には湘南発祥の地の碑が建っている。江戸時代にこの地が中国の湘南地方に似ていると詠った碑で、今は相模湾沿岸一帯が湘南を名乗っているが、ここが本家本元の湘南だということが大磯町が主張したいらしい。

湘南だけでなく旧島崎藤村邸、旧三井別邸、旧吉田茂邸があり、この地が近代日本の歴史文化の発展に果たした役割を感じる。



【大磯駅前の湘南発祥の地の碑】



【旧吉田茂邸】

そんな湘南の地を歩いていると、前から2人組が歩いてくる。近づくとつれてそれが女性2人で、さらに比較的若い娘だということが分かってくる。

私が「歩き旅ですか？」と声を掛けると、彼女たちは「はい、そうです」と答え、そして「小田原から歩いてきて、平塚まで歩きます」と付け足してくれる。師匠が「平塚は飲み屋が多いから、打ち上げだね」と言うと、彼女たちは「もちろん」と言いながら笑ってくれる。そんな他愛のない会話が終わり、彼女たちと別れる。

実は私も師匠も今まで結構な回数の歩き旅をしているが、同じような歩き旅をする人たちに初めて出会った。ましては若い女性ということで、「もっと話をすれば良かったなあ」と悔しがるが、後悔先に立たずとはこういうことを言うのだろう。

本日中に熱海まで行くにはさすがに無理と分かっていたので小田原くらいまではと思って歩いて来たが、既に太陽は低くなって寒さを感じる。私の万歩計は5万歩を超えており、これで歩き止めにして二宮駅から電車に乗ることにした。

ここで二宮という地名が、寒川の一宮に続く神社があるだろうと気が付き、スマホで調べると川勾（かわわ）神社が相模の国の二宮神社だと出てくる。こちらが格式高い神社のようだ。

そして駅の電光掲示板では東北新幹線はじめ北陸、上越などのJR東日本の各新幹線がほぼ全面運休していると掲示されている。旅行に行く人、行った人たちは大変だと気遣う。

## ■保養所に泊まる

今宵は銀行の保養所に泊まる。この保養所は銀行員の福利厚生施設なので、一般の人は泊まることができないが、私はこの銀行の特別顧客ということで泊まることできる。

企業の保養所はかつて多く存在していたが、今は激減している。それは会社が従業員の旅行や保養まで面倒をみる必要がない、あるいはそこまで干渉することではないという考え方からなのだろう。私が定年まで勤めていた会社でも 20 カ所程あった保養所は、現在は 1 カ所しかない。

ここの保養所は眼下に熱海の街と海を眺める場所にあり、眺めも良く落ち着ける。銀行の保養所なので変な人は宿泊しないので安心でき、館内はシンプルながら綺麗に整理整頓されているから実に気持ちよい。

食事は健康に考慮してバランスよく必要十分な分量で、なぜかホッとする。そしてこの内容で 1 泊 2 食付き税込み 6000 円は破格だろう。



【夕食】



【朝食】

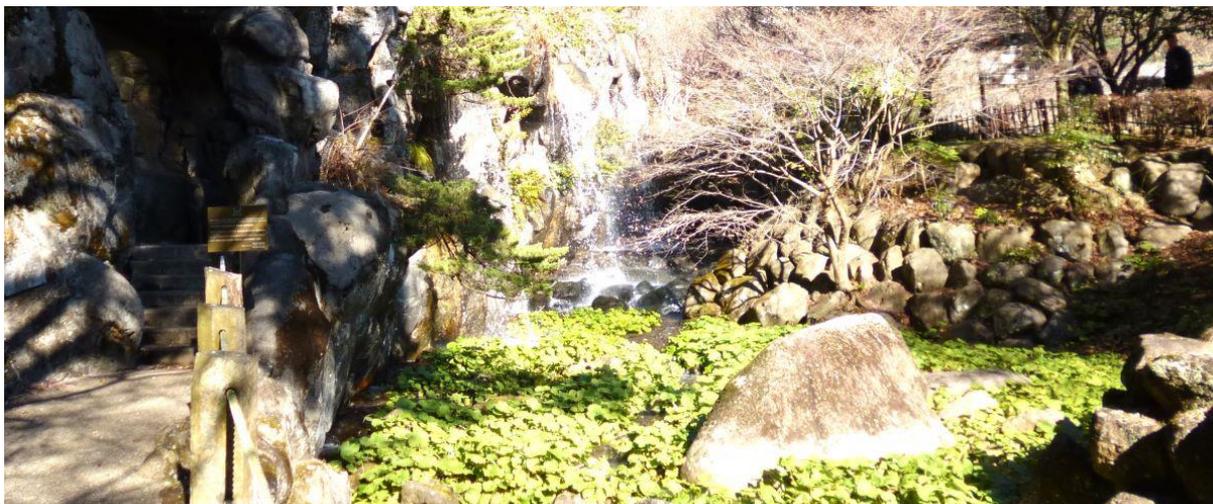
## ■熱海の梅園

翌日の午前中、保養所のお姉さんが見頃ですよと言っていたので、師匠と私は熱海の梅園を訪れる。まだ 1 月なので少し早いと思ったが、梅は結構咲いている。



【熱海梅園の梅】

梅園には梅だけではなく、伊豆半島名産のワサビもある。滝があってその滝が落ちている綺麗な池にワサビが群生しており、梅の花の赤や白に対してワサビの緑のコントラストがなかなかいい。滝の裏側は洞窟の通路になっており、裏見の滝も味わうことができる。



【梅園のワサビと滝 左に洞窟の通路の入口がある】

#### ■来宮神社

パワースポットの「来宮神社」を参拝する。ここがパワースポットと呼ばれる由縁は境内に樹齢 2000 年以上という楠があるからで、もちろんこれが御神木になっている。

その楠を望む場所にテラスがあり、売店ではビールを売っている。

まだ朝の 10 時前でこんな時間からビールを飲んでいる参拝客はいないが、師匠が「ちょっと寄って行こう」と言って、売店のお姉さんに「生ビール、大盛でね!」と注文する。彼女は「ありがとうございます。大盛ですね」とにっこり笑って答えてくれる。できた人だ。

私たちは並々と注がれた大盛ビールを受け取りテラス席のソファに座るが、さすがにやや寒い。そこでお姉さんに「室内で飲めますか?」と聞くと、彼女は「室内はないですが、ストーブがあります」と言ってストーブに火を点けてくれる。ストーブは高さ 2m 程で傘が付いており、傘の内側の上の部分に熱源があって熱を反射させて温めてくれる。



【来宮神社の樹齢 2000 年以上の楠】



【傘のようなストーブ】

暖かい熱源の下で飲む生ビールは格別に美味しい。さすがパワースポットだけあってパワーをもっていることが実感できる。

ストーブの傘の下に陣取り気持ち良くビールを飲んでいると、旅行者らしき女性2人組が近づいてきて、「美味しそうですね」と声を掛けてくる。私も師匠も昨日の歩き旅の女性2人ともう少し話をすれば良かったと後悔したことを思い出し、私が彼女たちに「このストーブの下は快適で、ビールがとても美味しいですよ。席は空いていますよ」と話しかける。彼女たちも「そうですか、そこにストーブがあるのですね」と言って同席することになる。

彼女たちと話をして「なぜ熱海に来たのですか？」と聞くと、この答えが思いもよらなかった。

昨日 JR 東日本の新幹線の運行中止のニュースを見たが、彼女たちは秋田新幹線で乳頭温泉に行く予定だったが行けなくなった。しかし JR 東海の東海道新幹線は運行していたので、目的地を熱海に変更して新幹線に飛び乗り、ホテルを予約して昨夜は熱海に泊まったという。

ここで運行中止の被害に遭った人たちと出会うとは、旅とは何と奇遇で、そして面白い。

少しして雪が降ってくる。さすがに大寒の時季で雪が降っても不思議ではないが、彼女たちは「本当は雪の乳頭温泉で雪見酒のはずが、まさか熱海で雪見酒とは・・・」と言っている。その後も旅の話で盛り上がり、彼女たちは「乳頭温泉に行けなかったのは残念だったけれど、熱海に来て旅の話ができて良かったわ」と嬉しいことを言ってくれる。

彼女たちと別れ、師匠もここから小田原まで歩いて行くと言っている。やはり“アルチュウ”か、それも“歩き中毒”だと感心して別れる。

私は新年会の会場に向う途中で糸川沿いの満開の熱海桜を観る。早咲きの桜としては伊豆半島の河津桜が有名だが、それよりも1カ月も早い。



【糸川沿いの熱海桜】

## ■ローマ風呂の宿

新年会は熱海の老舗ホテル「ホテル大野屋」で開かれる。と言っても私が予約したので私の独断で決めたといっても良い。

私がこのホテルを選んだ理由は、実はこのホテルは私が新入社員の頃に社員旅行で泊まったことがあり、当時は高級ホテルだった。

しかし現在は伊東園グループになって、そんなに敷居が高くはない。

伊東園グループは経営不振のホテルを買い取り、独自のノウハウで再建して宿泊客に安価で提供するというビジネスを展開している。最近の有名温泉地では伊東園の看板を多く見掛ける。

ちなみに大江戸温泉物語グループも同様なビジネスを展開しており、こちらも最近増えている。

敷居が低くなったといえ腐っても鯛の骨、ホテル大野屋の売りはやはりローマ風呂だろう。その名の通りローマ風の雰囲気を出すためにローマ人の石像を中心に白い石で造られた大きな風呂で、300人同時に入浴できる。ドライサウナもあるが、古代ローマはウエットサウナ（蒸し風呂）なので若干の違和感がある。まあそこまで考える宿泊客はいないか。



【ローマ風呂（ホテルの公式HPより）】

新年会は泊りなので私は特別貴賓室を予約した。部屋の定員は10人で、12畳と8畳と4畳の和室、そしてツインベッドの洋室がある。さらに10人が同時にくつろげる大きなリビングルームがあって、そこからは熱海の海岸や街が一望できる。

今回はこの部屋に私の旅友たち8人の男女が集い、大宴会が繰り広げられる。

あまりの酒量で熱海地方気象台酒量観測班は“局地的大酒特別警報”を発した。私も嫌いな方でないが、しばらく参戦して線状降酒帯が発生したとのことで早々に避難した。しかし1~2名は被害に遭ったようだ。しかし線状降酒帯に自ら飛び込んでいったという目撃情報もある。

## ■伊豆大島に渡る

翌朝、新年会に参加した大多数のメンバーが後泊旅行の伊豆大島に渡る。

なぜ後泊旅行を大島にしたかと言えば、ホテルから熱海港まで歩いて 5 分、その熱海港からはジェット船で大島まで 45 分で行ける。ジェット船は時速 80km も出すから凄い。

私は大島のペンションに頻繁に行っていたので、今回の参加者にも素晴らしい大島を体験してもらいたく企画した。さらに参加者の多くは関西から来ており、伊豆大島はあまり馴染みがないことも一因だろう。

大島に渡りレンタカーを借りる。ナンバープレートが品川ナンバーなので、同行メンバーたちは感激している。私も初めてこの島に来た時はそれに感激して写真を撮っていた。

約 50km の大島一周道路があり、私たちは大島一周を目指す。まずは大島のゴルフ場にやってくる。ここから見る景色は抜群で、特にこの時季は空気が澄んでおり伊豆半島も富士山も良く見ることができる。



【伊豆大島リゾートゴルフクラブからの景色 左が伊豆半島、右中央が富士山】

島の南にある波浮の港を訪れる。南端にあるので遠洋漁業の基地になっており、かつては多くの漁船が集まっていた。都はるみの歌「アンコ椿は恋の花」でも有名な港だ。

川端康成の小説「伊豆の踊り子」で主人公の青年と出会う旅芸人一座は波浮の港を拠点にして漁師たちを相手に芸をしていた。そんな踊り子たちの人形を無料で見物できる「踊子の里資料館」に入る。人形は電気仕掛けで動くようになっている。



【波浮の港】



【踊子の里資料館の踊り子の人形】

道路工事で偶然発見された通称バウムクーヘンと呼ばれる「地層大切断面」は世界的にも珍しい。もちろんメンバーたちは感激している。この断面は放っておくと草が生えてくるので定期的に散髪（草刈り）をして削っている。



【バウムクーヘンと呼ばれる地層大切断面】

#### ■伊豆大島に泊まる

本日は三原山の中腹にある「大島温泉ホテル」に泊まる。この宿は伊豆諸島に船を運航させている東海汽船が経営しており、その株主の私は半額で泊まることができる。もちろん同行のメンバーたちもその恩恵を受けられ、船賃も 35%割引になる。これを利用しない手はないだろう。

このホテルの売りは何と言っても露天風呂だろう。三原山が目の前に大きく広がって、解放感抜群の入浴ができる。実に素晴らしい。

私は時々「お勧めの絶景風呂はどこですか？」を聞かれるが、この露天風呂を紹介することも多い。



【大島温泉ホテルの露天風呂 (ホテルの公式 HP より)】





【三原山の登山口から中央の火山を望む 旅友の1人がポーズをとっている】

私たちの背後には伊豆半島が相模湾越しに見えて、その向うに雪化粧をした富士山が大きく見える。この絶景に関西から来たメンバーたちは大喜びだ。

登山道を登っているとドローンを飛ばしている地元の人たちと出会う。

「何をしているのですか？」と聞くと、「キョンを駆除するためにドローンで位置を確認しています」という。見上げると遥か上空にドローンが飛んでいる。

女性メンバーの誰かが「キョン？」とキョトンとしていると、地元の人が「小さな鹿くらいのヤツですが、畑の農作物を荒らして困っています」と教えてくれる。私たちは「頑張って駆除して下さい」と言って立ち去ろうとすると、「登山道から外れないように登って下さい」と言われる。キョンと間違えられて駆除されては大変だ。

頂上付近まで登ると、三原神社がある。この神社は火口付近にありながら過去の噴火で生き残ったもので、その強運を求めてわざわざ登山してくる参拝客もいる。

神社の近くにゴジラ岩と呼ばれるゴジラの姿に似た奇岩がある。そのゴジラ岩の向こうに富士山が見え、絶好のフォトスポットになっている。

あまりに抜群の“映え”なので、誰かが「これ、観光協会の人の手を加えたのかな？」と言っている。私もその可能性については否定するつもりはない。

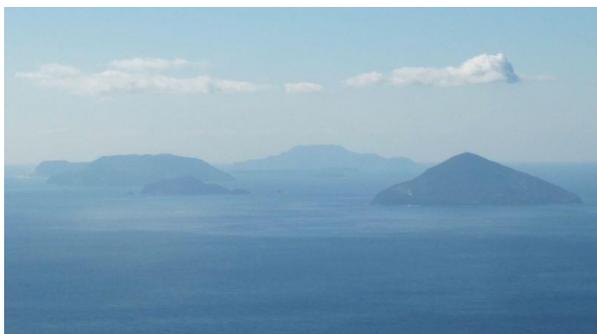


【三原神社の鳥居から富士山を望む】



【ゴジラ岩と富士山】

ここからお鉢回りが始まる。標高 700m 前後のお鉢を一周すると近海の半島や島が全て見える。伊豆半島と富士山という風景から、反対側に回ると利島を筆頭に新島、式根島、神津島、さらに三宅島や御蔵島まで見える。つまり私たちが立っている大島を含めると 7 島が同時に見えることになる。



【右から利島、式根島、神津島、新島】



【右から三宅島、背後に薄く御蔵島】

お鉢回りをしていると火口が大きく見えるポイントがある。火口は直径約 350m、深さ約 200m もあり、その火口の向こうには富士山という素晴らしい眺めを体験できる。

1984 年公開のゴジラ映画のラストシーンは、噴火しているこの火口にゴジラが落ちる。たとえゴジラでも生きて帰れないと思うが、ゴジラは不死身でその後も何度も復活する。

ゴジラはこれだけ日本映画に貢献しているのに、なぜ日本アカデミー賞を受賞できないのか、不思議に思うのは私だけでないだろう。



【直径約 350m、深さ約 200m の火口 左奥に富士山】

お鉢回りは蒸気が出ている場所もあり、島の鼓動が感じられる。海側には裏砂漠と呼ばれる平原が広がって、その海の向こうには房総半島が見える。

この大島の裏砂漠こそが国土地理院が日本で唯一砂漠と認めている場所で、ここ以外に砂漠と称するところは日本には存在しない。ちなみに鳥取砂丘はあくまでも砂丘で、砂漠ではない。



【火口と蒸気】



【裏砂漠と房総半島】

### ■珍道中の下山

お鉢回りをして登山口までの帰り道で、銃声が 2 発聞こえる。先ほどのドローンを飛ばしていた地元の人たちの仕業だろう。

男性メンバーの誰かが「キョンを 1 匹、ひよっとしたら 2 匹仕留めたかな」と言うと、女性メンバーの誰かが、「キョンキョン、可哀そう」と言っている。私は「キョンキョンだと、小泉今日子が駆除されちゃうよ」と言うと全員が大笑いだ。

もう少し歩いて行くと 1 人の女性メンバーが「お花を摘んできます」と言って登山道から草むらに入ってしまった。キョンが駆除されたことで安心して登山道から外れたようだ。

しかし戻ってきた彼女に向かって「どんな花があったの?」、さらに「摘んだ花を見せて」と言っている輩がいる。

これはとんでもないことを言っている。それは山登りをする山ガールの隠語で「お花摘みに行く」はその辺で用を足すこと、つまりトイレを意味している。

花摘みから戻って来た彼女も返答に困っており、別のメンバーがその意味を解説し始める始末だ。

女性は花摘みと洒落た隠語だが、男の場合は「キジ撃ちに行く」と言い、大便を大キジ、小便を小キジとも言う。キジにとっては用を足される度に撃たれるのではたまったものでもない。

### ■打ち上げ

港に戻り、レンタカーを返すと港近くの寿司屋に入り、打ち上げが始まる。

大島名物の「べっこう寿司」を注文する。べっこう寿司とは白身魚を青唐辛子でといた醤油タレに漬けてにぎったもので、その色からそう呼ばれている。ピリ辛で実に美味しい。

なぜ青唐辛子かというと、大島ではワサビが育たないので青唐辛子で代用した。熱海の梅園では群生していたワサビだが、島でワサビが採れないのは水の問題だろう。

そして本日の寿司ネタは金目鯛で、これも美味しい。金目鯛もこの近海で多く獲れるから、やはり“地のモノ”で新鮮だ。

美味しい料理があれば酒もすすむというもので、伊豆諸島の神津島産の麦焼酎「盛若」をボトルで注文する。すると店主が「あと 30 分で昼の部は閉店するので、ボトルを入れて大丈夫ですか?」と聞いてくる。

皆は一瞬顔を見合わせるが、メンバーの誰かが「問題ないでしょう」と言って注文する。すると 720ml のボトルは 30 分もせず空になった。そして心配していた店主は目を丸くして驚いている。



【べっこう寿司】



【盛若】

メンバーたちはボトル 1 本では足りないようで船に乗る前にビールや日本酒をたくさん買い込んでいる。私は、これはまた“局地的大酒注意報”が発令しそうだと心配していると、案の定、線状降酒帯は大島から時速 80km で北上する。

#### ■伊豆 7 島問題

線状降酒帯の中、私は伊豆 7 島問題を思い出した。それは今回の三原山登山で大島から三宅島と御蔵島を見たからだ。

かつて私は旅行記で伊豆 7 島問題というものを取り上げていた。それは俗に“伊豆 7 島”というが、実際は伊豆諸島の有人島は 9 島あって数が合わない。それを調べることを旅のテーマの一つにしていた。

その結論が、以下のような仮説だった。

伊豆諸島という名前が示すように、これらの島はかつて伊豆の国だった。だから伊豆半島から見える島々を言うのではないか。それは現在の静岡県の中島、明治の初めに静岡県から東京都になった大島、利島、新島、神津島、三宅島、御蔵島の 7 島を指したという仮説だ。式根島を外した理由は、式根島は明治時代まで無人島で新島の島民が便利に使っていたからで、領主にとって人が住んでいるか否かは税の取り立てで重要なことになる。

その仮説で私が少し心配していたことは、伊豆半島から御蔵島を見るためには伊豆半島最高峰の天城山（標高 1405m）に登らないと見えないということだった。しかし今回大島から御蔵島が見えた。大島ならば領主も来ただろう。そうすると御蔵島まで 7 島を見ることになる。

そして八丈島の“八”は 8 番目の島を意味しているという説にも合致する。

#### ■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひょい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会、委員は同行した人になる。何が良かったとか悪

かったとか、あれこれ話し合っって評価項目を 5 段階で評価し、委員会として評価値を算出する。ただし今回は私 1 人の意見で決定した。

評価項目は泉質、風呂、料理、コスパ、サービス、建物・部屋、立地環境の 7 項目で、平均値を総合点としている。温泉は泉質と風呂で分けており、立地環境はかつて秘湯度という項目だったが、都市型の温泉もあるのでロケーションや景色を総じて評価するようにした。

評価基準は 5 段階としてその定義は、5 は驚き感動、4 は普通に良い、3 は可もなく不可もない、2 は普通に悪い、そして 1 は失望落胆としている。

熱海の保養所は泉質 4、風呂 3、料理 4、コスパ 5、サービス 4、建物・部屋 4、立地環境 4、総合点 4.00 になった。

湧出温度は 86°C、pH7.7、泉質はナトリウム・カルシウム-塩化物温泉（低張性、弱アルカリ性、高温泉）だった。

ホテル大野屋は泉質 4、風呂 5、料理 3、コスパ 3、サービス 3、建物・部屋 4、立地環境 4、総合点 3.86 になった。

湧出温度は 86°C、pH7.7、泉質はナトリウム・カルシウム-塩化物温泉（低張性、弱アルカリ性、高温泉）だった。

大島温泉ホテルは泉質 4、風呂 5、料理 4、コスパ 3、サービス 3、建物・部屋 3、立地環境 5、総合点 3.86 になった。

湧出温度は 69°C、pH6.6、泉質は単純泉（低張性、中性、高温泉）だった。

## ■旅の記録

実施は 2024 年 1 月 23 日（火）～1 月 26 日（金）の 3 泊 4 日、その行程を示す。

- ・ 1 日目 早朝に自宅を出て相鉄線さがみ野駅から師匠と目久尻川沿いを歩き、寒川のガストで朝食、その後相模川沿い、国道 1 号線を歩き、平塚駅前の日高屋で昼食二宮駅まで歩き、JR 東海道線で熱海まで降り、タクシーで宿へ銀行保養所にチェックイン
- ・ 2 日目 宿を出て熱海梅園、来宮神社、温前神社、師匠と別れて貫一宮の像を散策 14 時に熱海駅で友人たちと合流、糸川沿いの桜並木散策、15 時ホテル大野屋チェックイン
- ・ 3 日目 宿を出て熱海港 9 時 10 分発東海汽船ジェット船で伊豆大島に 45 分で渡るレンタカーを借りて島内一周、大島ゴルフクラブ、サンセットパームライン、ペンションすばる、食料品店で昼食購入、泉津の切通しを見物、大島公園で昼食、筆島、波浮の港、地層大切断面、大島町メモリアル公園を見物、16 時大島温泉ホテルチェックイン
- ・ 4 日目 9 時に宿を出て、三原山登山口へ行き三原山登山、お鉢回り、弘法浜、プラットハウス、岡田港でレンタカーを返して寿司屋で打ち上げ 15 時 30 分のジェット船で熱海港入港し解散、帰途に着く

自宅を出てから帰宅までの総費用は約 5 万 1 千円になった。全て 1 人当りに換算して詳細を以下に示す。

- ・ 宿泊費 28281 円、詳細は以下
  - 銀行保養所 6500 円 (宿泊費+生ビール 500 円)
  - ホテル大野屋 14065 円 (夕食は 90 分飲み放題)
  - 大島温泉ホテル 7716 円 (宿泊は株主優待で半額、夕食時ワイン含む)
- ・ 交通費 15071 円、詳細は以下
  - 二宮～熱海 JR 在来線 594 円
  - タクシー 325 円 (2 人で 650 円)
  - 船 (熱海～大島の往復) 7728 円 (株主優待で 35%引き)
  - レンタカー 3003 円 (36 時間、特別割引適用)
  - ガソリン代 321 円 (単価 203 円、11.87L)
  - 熱海～新横浜 新幹線 3100 円 (新幹線 5 時間 9000 円/6)
- ・ 昼食代 4165 円、詳細は以下
  - 1 日目の朝食と昼食 約 2500 円 (ファミリーレストランでビールなど)
  - 2 日目 昼食なし 0 円
  - 3 日目 軽食 約 500 円 (おにぎり等)
  - 4 日目 寿司屋 約 2400 円 (岡田港で打ち上げ、アルコール込み)
- ・ その他 2300 円
  - 熱海梅園入場料 100 円 (宿泊者割引適用)
  - 持ち込み酒類とつまみ 約 2200 円